

朝鮮語??形 , ? ??形 (?? ??形) と日本語シタ形 , シテイル形

著者	生越 直樹
雑誌名	研究報告集
巻	16
ページ	185-206
発行年	1995-03
シリーズ	国立国語研究所報告 ; 110
URL	http://doi.org/10.15084/00001157

朝鮮語했다形、해 있다形 (하고 있
다形) と日本語シタ形、シテイル形

生 越 直 樹

OGOSHI Naoki: Tense and Aspectual Systems in Korean and Japanese
: HAISSDA, HAI 'ISSDA / HAGO 'ISSDA and SI-TA,
SI-TEIRU

要旨：本稿は、朝鮮語と日本語のテンス・アスペクトに関わる諸形態のうち、特に朝鮮語の ㄷ다 haissda 形, 해 있다 hai 'issda 形・하고 있다 hago 'issda 形と日本語のシタ形, シテイル形について論じたものである。

上記の諸形態の用法を調べてみると、多くの場合、朝鮮語の ㄷ다 haissda 形に対して日本語のシタ形, 해 있다 hai 'issda 形・하고 있다 hago 'issda 形に対してシテイル形が対応する。ところが、現在の状態に対する発話においては、ㄷ다 haissda 形とシテイル形が対応する場合がある。本稿では、このような日朝両語間の対応関係のずれがどのような要因によるのかを明らかにした。

考察の結果、①朝鮮語では、変化の成立と変化結果の持続性、つまり変化の完了が話者にとって重要な情報であるとき ㄷ다 haissda 形が使われ、変化の完了が重要な情報でないときには、해 있다 hai 'issda 形が使われること、②ただし、ㄷ다 haissda 形の文の中にも変化の成立そのものが重要な場合と、変化の結果状態の持続が重要な場合があること、③一方日本語では、話者が直接獲得した情報に過去と現在で差がある場合にはシタ形、過去の情報を持たないか無視する場合にはシテイル形が使われることがわかった。

キーワード：朝鮮語, テンス, アスペクト, 対照研究, ㄷ다 haissda, 해 있다 hai 'issda, タ, テイル

Abstract: This paper deals with some differences in the tense and aspectual systems of Korean and Japanese.

The past (or perfect) form HAISSDA and the resultative form HAI'ISSDA / HAGO'ISSDA in Korean are usually used in the same way as SI-TA and SI-TEIRU in Japanese, respectively, but HAISSDA can be used to describe a static situation in the present time which cannot be described with SI-TA.

In Korean, the resultative form HAI'ISSDA is used when the speaker describes the situation in question as a static one. The past (or perfect) form HAISSDA is used when the speaker emphasizes his / her empathy with the dynamic process of the change or the maintenance process of the state.

In Japanese, on the other hand, the past (or perfect) form SI-TA can be used only if the speaker knows the previous state of the referent in question before change and realizes the differences between the past and the present states. If the speaker does not know the previous condition, the resultative form SI-TEIRU must be used.

Key words: Korean, tense, aspect, contrastive study, haissda, hai 'issda, -ta, -teiru

1. 問題の所在

朝鮮語は、日本語と文法構造がよく似た言語として知られている。しかし、詳しくみると、いろいろな違いがある。その一例が次のような例である。

- (1) a. 다나카 씨는 작년에 죽었다.
danaka ssi-nun jaknyen-'oi jug-'æssda¹⁾
b. 田中さんは去年 死んだ。
- (2) a. 길가에 사람이 많이 죽어 있습니다.
girga-'oi saram-'i manh'i jug'ə 'iss-subnida
b. 道ばたに人が たくさん死んで 있습니다。
- (3) (死体を発見してすぐ) a. 사람이 죽었다!
saram-'i jug-'æssda
b. 사람이 死んでいる!

(1)の場合、朝鮮語は죽었다 jug-'æssda (死んだ)、つまり、動詞に過去を表すとされる接辞 았 'æss (았 'ass, 었 'yæss) が付いた形 (ここでは、この形을 했다 haissda 形と呼ぶ) が使われ、対応する日本語では「～た」の形 (ここでは、シタ形と呼ぶ) が使われている。次の(2)の場合、朝鮮語는 죽어 있다 jug'ə 'issda (死んでいる)、つまり、動詞の連用形に補助動詞의 있다 'issda (いる) が付いた形 (ここでは 해 있다 hai 'issda 形と呼ぶ) が使われ、日本語では「～ている」の形 (ここでは、シテイル形と呼ぶ) が対応している。朝鮮語의 해 있다 hai 'issda 形は、変化の結果状態を表すとされており、(1)(2)の場合、朝鮮語と日本語の対応関係は並行的である。ところが、(3)になると、朝鮮語는 했다 haissda 形であるのに、日本語はシテイル形になる。ここで、朝鮮語と日本語の対応関係にずれが生じているわけである。同様の例として、次のような例もある。

(4) (いい服を着た見知らぬ人を発見して)

a. 저 사람 괜찮은 옷 입었네.
jə saram gwaincanh'un 'os 'ib-'əss-nəi

b. あの人 いい 服 着てるな。

(5) (近づいてきた見知らぬ人が酒臭いのに気づいて横の友達に)

a. 술 마셨다.
sur masyəssda

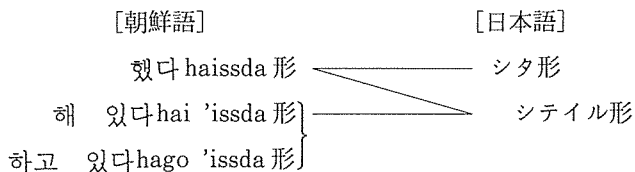
b. お酒飲んでる。

(6) a. 영철이는 아버지 닮았네.
'yŋcər'i-nun 'abəji darm-'ass-nəi

b. ヨンチョリは お父さんに似ているな (お父さん似だな)。

(4)~(6)の場合も、朝鮮語の 했다 haissda 形に対し、日本語ではシテイル形が対応している。(4)の動詞 입다 'ibda (着る)は、語尾의 고 go に補助動詞의 있다 'issda がついた形(ここでは 하고 있다 hago 'issda 形と呼ぶことにする)で、変化の結果状態を表しうるのだが、(4)では 했다 haissda が使われる。(3)~(6)を見てわかるように、朝鮮語의 했다 haissda 形と日本語のシテイル形の対応は、現在目の前にある状態に対して何らかの発話をするときに起きている。その状態というのは、何らかの変化の結果生じたと考えられる状態である。(6)のように、実際は単なる状態の場合でも、動詞を使うことによって、その状態があたかも変化の結果状態のように表現されている。つまり、(3)~(6)に現れた朝鮮語と日本語の対応のずれというのは、現在目の前に変化の結果状態がある場合、それに対する表現方法が両言語でくい違っていることを示している。

以上、これまで出てきた朝鮮語と日本語の形態の対応関係を整理すると次のようになる。



本稿では、現在の状態に対する発話において、朝鮮語の 했다 haissda 形と日本語のシテイル形が対応する可能性があることに注目し、上のような日朝両語間の対応関係のずれがどのような要因によるのかを明らかにしたい。

2. 朝鮮語動詞の分類

本論に入る前に、朝鮮語のテンス・アスペクトに関する諸形態とそれをもとにした動詞の分類について述べておく。朝鮮語のテンス形式は、大まかに言って動詞に接辞の 았 'ess (았 'ass, 았 'yess) が付いた形 (했다 haissda 形) と、接辞が付かない形 (ここでは 한다 handa 形と呼んでおく) がある。했다 haissda 形が過去, 한다 handa 形が現在 (非過去) を表すとされる。アスペクト形式としては、まず、前で少し触れた 하고 있다 hago 'issda 形があり、多くの場合動作の継続を表す。ただし、(4)의 입다 'ibda (着る) のように、再帰性を持つ一部の他動詞では、変化の結果状態を表すこともある。アスペクト形式にはもう一つ、前に述べた 해 있다 hai 'issda 形があり、変化の結果状態を表す。動詞の中にはアスペクト形式にならない、つまり 하고 있다 hago 'issda 形にも 해 있다 hai 'issda 形にもならないものがある。²⁾

朝鮮語の動詞を, 하고 있다 hago 'issda 形・해 있다 hai 'issda 形になるか否か, またその形でどのような意味を表すかによって分類してみると, 表1の①～⑤のように, おおよそ5つの類に分けられる。

表 1

	하고 있다 hago 'issda 形		해 있다 hai 'issda 形	
	動作継続	変化結果状態	変化結果状態	
A ①	×	×	×	自動詞・他動詞の一部
②	×	×	○	自動詞の一部
B ③	○	×	○	自動詞の多く
④	○	○	×	他動詞の一部
C ⑤	○	×	×	自動詞の一部・他動詞の多く

上の②～④の動詞の 해 있다 hai 'issda 形・ 하고 있다 hago 'issda 形は変化の結果状態を表しうる。これに対し、⑤の動詞의 하고 있다 hago 'issda 形は動作の継続を表すのみで、変化の結果状態を表すことができない。つまり、②～④の動詞では、現在の目の前にある結果状態に対して 했다 hai 'issda 形を使うのか、해 있다 hai 'issda 形・ 하고 있다 hago 'issda 形を使うのかという問題が生じるのに対し、⑤の動詞ではそういう使い分けの問題が生じない。これは、②～④の動詞が基本的に変化動詞であるのに対し、⑤の動詞は動作動詞であることに起因しているのであろう。このほか、①の動詞はアスペクト形式にならず、さらに 했다 haissda 形の用法においても②～⑤と違いがある。³⁾ そこで、本稿では、朝鮮語の動詞をAグループ(①)、Bグループ(②③④)、Cグループ(⑤)の3つに分けて考察することにする。Aグループには 닮다 darmda (似る), 결혼하다 gyerhondhada (結婚する) など、Bグループには 늙다 nurgda (老いる), 죽다 jugda (死ぬ), 입다 'ibda (着る) など、Cグループには 마시다 masida (飲む), 걸다 gædda (歩く) などが属する。

3. 朝鮮語 했다 haissda 形と日本語シテイル形

3.1. 朝鮮語の動詞Bグループの場合

朝鮮語의 했다 haissda 形が日本語のシテイル形に対応する場合のうち、

まず朝鮮語の動詞がBグループ、すなわち, 해 있다 hai 'issda 形か하고 있다 hago 'issda 形で変化の結果状態を表しうる動詞の場合について考えてみる。この種の動詞の 했다 haissda 形とシテイル形の対応例としては、次のようなものがある。なお, 例文中の* は, その文脈では認められない形であること, ? はやや不自然であること, (?)はインフォーマントによって認める人と認めない人がいることを示す。

- (3) (死体を発見してすぐ) a. 사람이 {죽었다/?죽어 있다} !
 saram-'i {jug-'æssda / ? jug'ə 'issda}
 b. 人が {*死んだ/死んでる} !

(7) (腕時計が止まっているのに気づいて)

- a. 어, {멈췄다/*멈춰 있다} !
 'ə {məmçwæssda / *məmçwə 'issda}
 b. あ, {*止まった/止まってる}。

(8) (相手の社会の窓が開いているのを発見してすぐ)

- a. 남대문 {열렸다/?열려 있다} !
 namdaimun {'yorryæssda / ? 'yorryə 'issda}
 b. 社会の窓が {*開いた/開いてる}。

(4) (いい服を着た見知らぬ人を発見して)

- a. 저 사람 괜찮은 옷 {입었네/*입고 있네} .
 jə saram gwaincanh-'un 'os {'ib-'æss-nəi / * 'ib-go 'iss-nəi}
 b. あの人 いい 服 {*着たな/着てるな}。

上の文は, すべて目の前にある変化の結果状態を見て発話したものである。話者はその変化あるいは動作そのものを見たわけではない。すでに述べたように, 했다 haissda 形とシテイル形が対応するのは, このような目の前の結果状態に対する発話においてである。上のような状況では, 해 있다 hai 'issda 形より 했다 haissda 形を使った方がより自然な文になる。一方, 日

本語では、シタ形を使うと不自然、あるいは別の意味になってしまう。ところで、上の文で使われている朝鮮語の動詞は、해 있다 hai 'issda 形か 하고 있다 hago 'issda 形でも変化の結果状態を表すことができる。そうすると、했다 haissda 形が使われた場合と 해 있다 hai 'issda 形・하고 있다 hago 'issda 形が使われた場合では、どのような違いがあるのだろうか。次の例は、해 있다 hai 'issda 形・하고 있다 hago 'issda 形が使われた例である。

(9) (ニュースで現場の記者が)

a. 길가에 사람이 많이 { * 죽었습니다 / 죽어 있습니다 } .
 girga-'əi saram-'i manh'i { * jug-'əss-swbnida / jug'ə 'iss-swbnida }

b. 道ばたに 人が たくさん { * 死にました / 死んでいます }。

(10) a. 이 시계는 삼일 전부터 { * 멈췄어요 / 멈춰 있어요 } .
 'i sigyəi-nun sam'ir jən-butə { * məmcwəss'ə-yo / məmcwə 'iss'ə-yo }

b. この 時計は 三日 前から { * 止まりました / 止まっています }。

(11) a. 아까 주의를 줬는데 여전히 남대문이
 'agga ju'wi-rur jwəss-nundəi 'yəjənhi namdaimun-'i

b. さっき注意したのに 相変わらず社会の窓が
 { * 열렸네 / 열려 있네 }.

{ * 'yərryəss-nəi / 'yərryə 'iss-nəi }

{ * 開いたよ / 開いてるよ }。

(12) (司会者が田中さんを紹介するとき)

a. 오늘 다나카 씨는 빨간 드레스를 { * 입었습니다 /
 'onur danaga ssi-nun bbarga-n durəisw-rur { * 'ib-'əss-swbnida /

b. 今日 田中さんは 赤い 드레스를 { * 착았습니다 /
입고 있습니다 } .

'ib-go 'iss-swbnida}

착ています }。

上の文も, **했다** *haissda* 形の文(3)(4)(7)(8)と同様, 変化の結果状態が現在目の前にあるときの表現である。しかし, これらの文では, **했다** *haissda* 形を使うと不自然, あるいは別の意味になる。**했다** *haissda* 形が使われる(3)(4)(7)(8)の場合, ある事態を目撃したときの文であり, この場合, 話者は変化が起こったことに発話時にはじめて気づいている。一方, **해 있다** *hai 'issda* 形が使われる(9)~(12)の文は, 変化の起こったことをすでに知っていて, その結果状態が現在も存在していることを述べた文である。特に, 文中に **삼일전부터** *sam'ir jən-butə* (三日前から), **여전히** *'yøjənhi* (相変わらず) など状態の継続を表す語句がある場合には, **했다** *haissda* 形は使えず, **해 있다** *hai 'issda* 形が使われる。このことから, **했다** *haissda* 形は変化の結果状態よりも変化の成立自体が話者にとって重要な情報のとき使われ, **해 있다** *hai 'issda* 形は変化の結果状態の存在が重要なときに使われると考えられる。ところが, 次の例のように変化の結果状態を目撃したときに, **해 있다** *hai 'issda* 形が使われることもある。

(13) (教室に入ってきた先生が座っている生徒達を見て)

- a. 다 { *앉았네 / 앉아 있네 } .
 da { * 'anj-'ass-nəi / 'anj-'a 'iss-nəi }
 b. みんな { * 座ったな / 座ってるな }。

(14) (道に財布があるのを見て)

- a. 지갑이 { (?)떨어졌다 / 떨어져 있다 } !
 jigab-'i { (?)ddər'əjyəssda / ddər'əjyə 'issda }
 b. 財布が { * 落ちた / 落ちてる }。

(13)では**해 있다** *hai 'issda* 形が使われ, **했다** *haissda* 形だと不自然, または別の意味になる。(14)では**했다** *haissda* 形, **해 있다** *hai 'issda* 形が共に使用可能のようであるが, インフォーマントの中には **했다** *haissda* 形は使えないとする者もいた。目の前の結果状態を見て発話している点では, 上

の(13)(14)も ㄷ다 haissda 形の文(3)(4)(7)(8)も同じである。しかし、両者は変化の成立そのものが重要な情報であるか否かという点で異なる。ㄷ다 haissda 形の文では、「人が死ぬ」「時計が止まる」などという変化自体、話者にとって予期せぬ出来事である。つまり、変化の起こったこと自体が重要な情報となっている。一方、(13)の文の場合、状況から考えて「座る」という変化自体はある程度予期されていたことであり、重要な情報ではない。(14)の場合、「財布が落ちる」という変化が実際に起こったかどうかは実は不確かで、話者が勝手に思っているだけである。誰かが「捨てた」可能性もある。その分、変化の成立を強調しにくい状況であると言えよう。このような変化成立の不確実性が、ㄷ다 haissda 形の容認度の低さになっているものと思われる。同じ動詞でも、次の例のように、変化の成立がほぼ確実で、それが予期せぬ出来事の場合は ㄷ다 haissda 形が使われる。

(15) (相手の服のボタンがとれているのを発見して)

- a. 단추 {떨어졌다 / *떨어져 있다} !
 dancu {ddər'əjyæssda / * ddər'əjyə 'issda}
- b. ボタンが {* とれた / とれてる}。

以上のことから、(13)(14)は変化の成立そのものを重要な情報とみなしにくい場合だと考えられる。このように、変化の成立自体が重要でないときには、はじめて知ったことでも 해 있다 hai 'issda 形が使われる。先ほど、해 있다 hai 'issda 形は変化の結果状態の存在が重要なときに使われると述べたが、むしろ、変化の成立自体が重要でないとき、つまり、結果状態の存在が重要なときか、単に目の前の状態をそのまま表現するときに使われるとした方がよいようである。

さて、先ほどとは逆に、変化の起こったことをすでに知っている場合に ㄷ다 haissda 形が使われることもある。

(16) (相手の誘いに対して)

- a. 미안하지만 다음주는 예정이 꼭 {잡는데요/
mi'anha-jiman da'umju-nun 'yøijəŋ'i ggwag {cass-nuundəi-'yo /
- b. すみませんが、来週は 予定がぎっしり (? 詰まったんですが /
차 있는데요} .
ca 'iss-nuundəi-'yo}
詰まってるんですが。

上の文では 했다haissda 形, 해 있다hai 'issda 形両方とも使える。ということは、発話時以前に変化の起こったことを知っている場合でも, 했다haissda 形を使うことができるのである。インフォーマントによると, 해 있다hai 'issda 形を使うとまだ変更できる可能性がありそうな感じがするが, 했다haissda 形を使うときっぱりと断る感じがするという。つまり, 했다haissda 形は単に「予定が詰まっている」ことを示すだけでなく, その「予定が詰まっている」状態が簡単に変更できないことも示しているのである。そうすると, 했다haissda 形は変化の成立だけでなく, 変化の結果状態の持続が話者にとって重要な情報であるときにも使われると言える。このような 했다haissda 形と結果状態の持続性との関係は, 実際に使われている用例を見てもよくわかる。

- (17) 아저씨네는 뭘 갖고 다녀요? 망치나 틀이겠지 머.
(おじさんたちは何を持って歩いてんです。かなづちかノコギリでしょ。
요 속에는 현 속치마 몇벌, 뽀스, 화장품,
'yo sog-'əi-nun hæ-n sogcima myəc-bər, bbansu, hwajaŋpum,
この中には 古い シミーズ 数枚, 팬티, 化粧品,
그런 게 들었지요.[森]
gura-n gəi dur-'əss-ji-'yo
そんな 物が 入ってるんですよ。)

- (18) “튀어 봤자 벼룩이야. 역구내에 짹 갈렸어!” [우]
 tui'ə bwass-ja byerug-'i'ya 'yeggunai-'əi jjwag ggarryess'ə
 (袋のネズミだ。駅の構内にあちこち散らばっている (駅の構内はすっかり
 囲まれてる。))

上の例は、いずれも小説から採った文である。やはり、現在のある状態に対する発話である。これらの文では, 해 있다 hai 'issda 形を使うこともできるが, 実際には ړ다 haissda 形が使われている。(17)は, 酒場で働いている女が, 自分の持ち物について話す場面で, 들었다 dur-'əssda (入った) という ړ다 haissda 形を使うことにより, そういうものが入っている状態がずっと続いていること, つまり, そういう生活がこれまでずっと続き, そしてこれからも続くであろうことが示されている。(18)は, 警察が犯人に言っていることばで, ړ다 haissda 形を使うことによって, 取り囲まれた状態がずっと続くこと, つまり, もう逃げられないことを印象づけている。このように, ړ다 haissda 形は変化の成立だけでなく, 変化の結果状態の持続性が重要なとき, 言い換えれば, 持続性を強調したいときにも使われるのである。そして, この持続性の強調というのは, 単に現在その状態であるばかりでなく, これからもその状態が続くことを暗示するのである。

上で述べた, 変化の成立と結果状態の持続の関係というのは, 変化の結果状態が持続的なものであるなら, その変化の成立さえ示せば, 自動的に現在そして今後の結果状態を示すことになる, そういう関係である。結局, この変化の成立と結果状態の持続というのは, 変化の完了を示すことにほかならない。そうすると, ړ다 haissda 形は変化の完了が話者にとって重要な情報のとき使われると言い換えることができる。朝鮮語の ړ다 haissda 形の機能については様々な考え方があるが, 少なくとも文脈や動詞の種類によって, アスペクティブな意味を持つときがあることは確かなのである。

ただし, これまで見てきたように, ړ다 haissda 形の文の中にも変化の成立そのものにより重点がある場合と, 変化の結果状態の持続により重点があ

る場合がある。これまでの例からみると、発話時まで変化の成立を知らなかったときは変化の成立そのものが重要な情報となり、発話時に変化の成立をすでに知っていたときは結果の持続が重要な情報となっている。これについては、さらに細かい検討が必要であろう。いずれにせよ、まとめれば変化の完了ということになるとしても、どの局面が重要な情報かは一様でないということを確認しておく必要がある。

このほか、これまでの例を見てわかるように、**했다** haissda 形が現在の結果状態に対して使われるのは話しことばに限られている。さらに、**했다** haissda 形の文は話者の驚き、無念さなど常に話者の何らかの感情を伴っている。その点で、主観性の強い表現と言えよう。つまり、ここで見てきた**했다** haissda 形は、単にテンス・アスペクト的な意味を示すだけでなく、モダリティ的な意味も含む。一方、**해 있다** hai 'issda 形は話しことばだけでなく、書きことばでも使われ、**했다** haissda 形のように常に話者の感情を伴うということはない。その点からみて、**해 있다** hai 'issda 形は客観性の強い、目の前の状態をそのまま表現する形だと考えられる。これら二つの形は、対立する形式と見るよりも、**해 있다** hai 'issda 形が無標、**했다** haissda 形が有標の関係にあると見るべきであろう。

ここで述べたことのうち、**했다** haissda 形が変化そのもの、**해 있다** hai 'issda 形が変化の結果状態に焦点があるということは、すでに、伊藤（1989）でも指摘されている。ただし、伊藤（1989）の考察対象は、本稿のような目の前の結果状態に対する発話ではなく、また、**했다** haissda 形と結果状態の持続性の関係についても言及されていない。⁴⁾ そのほか、**했다** haissda 形と**해 있다** hai 'issda 形の違い、およびモダリティとの関係について、浜之上（1992）は、「言語外の事象としての先行動作の結果として生じた後続状態が、話し手にとって新しい状況として驚きをもって認識された場合、**했다** が選ばれ、そう認識されない場合に**해 있다** が選ばれる」（91p）と指摘している。しかしながら、すでに述べたように新しい状況か否かだけで、**했다** haissda 形と**해 있다** hai 'issda 形の用法を完全に説明することはできない。

以上の考察から、現在目の前に、ある変化の結果状態が存在するとき、その変化の成立と変化結果の持続性、つまり変化の完了が話者にとって重要な情報のときに **했다** *haissda* 形が使われ、変化の完了自体が重要な情報でないときには **해 있다** *hai 'issda* 形が使われるということがわかった。

3.2. 朝鮮語の動詞 Aグループ, Cグループの場合

次に、朝鮮語 **했다** *haissda* 形と日本語シテイル形が対応する場合のうち、朝鮮語の動詞が Aグループ, Cグループの場合を考えてみる。まず、Aグループ、つまり、**해 있다** *hai 'issda* 形にも **하고 있다** *hago 'issda* 形にもならない動詞の場合から見ていく。例としては、次のようなものがある。

(6) a. 영철이는 아버지 답았네.

'yŋcər'i-nun 'abəji darm-'ass-nəi

b. ヨンチョリは お父さんに似ているな (お父さん似だな)。

(19) (初対面の相手に) a. 결혼하셨어요?

gyərhonha-syæss'ə-yo

b. 結婚していらっしゃいますか。

上の例に出てくる朝鮮語の動詞 **답다** *darmda* (似る), **결혼하다** *gyərhonhada* (結婚する) は、いずれも **해 있다** *hai 'issda* 形, **하고 있다** *hago 'issda* 形にならない、あるいはなりにくい動詞である。これらの動詞に共通するのは、その変化の結果状態が持続的だという点である。 **답다** *darmda* は特に顔つきが似ていることを表しており、顔つきは生まれつきのもので簡単には変更できない。同様に、 **결혼하다** *gyərhonhada* も一旦その行為を行うと、その結果状態は社会的通念からすると死ぬまで続く、そういう変化である。 **했다** *haissda* 形の文(6)(19)は、そういう持続的な結果状態を表しており、この点は、Bグループの場合と共通している。

ただし、 **답다** *darmda* のように変化時のはっきりしない変化を表す動詞の

場合、その 혔다 haissda 形は発話時と関係なく単に主体の持つ性質・特徴を表すものとなり、書きことばでも使われる。また、결혼하다 gyerhonhada の 혔다 haissda 形も、単に既婚であることを示すのみで、話者の特別な感情を含まない。これらの点は、Bグループの場合と異なっている。답다 darmda などの 혔다 haissda 形が単なる状態を表すのは、それらの変化が変化時を特定できないものであるため、혔다 haissda 形が表す変化の成立という意味が薄れ、もう一つの結果状態の持続性だけが残ったためと考えられる。その結果、意味的には形容詞に近いものになっている。⁵⁾

次に、Cグループ、つまり、해 있다 hai 'issda 形にはならず、하고 있다 hago 'issda 形でも動作の継続を表すのみで変化の結果状態を表さない、そういう動詞の場合を見ることにする。このグループの動詞は、前に述べたようにその多くが動作を表すものであり、動作の場合、終了した後に結果状態が残ることはあまりない。そのため、A、Bグループで見られたような 혔다 haissda 形の用法はほとんどない。ただし、次のように動作の結果生じた主体の変化が発話時まで残っているときには、現在の状態に対して 혔다 haissda 形を使うことができる。

(5)(近づいてきた見知らぬ人が酒臭いの気づいて横の友達に)

- a. 술 마셨다.
sur masyæssda
- b. お酒飲んでる。

上の文の場合、「酒を飲む」という動作の成立が話者にとって重要な情報になっている。ただし、発話時に存在する持続的な結果状態と動作そのものとは間接的な結びつきでしかない。この点が、Bグループの場合と異なる点である。

以上から、A、Cグループの 혔다 haissda 形の文も、Bグループと同様、動作（変化）の成立や変化の結果状態の持続性に焦点を当てた表現だと言え

よう。このうち、Aグループの場合は、変化の結果状態の持続性に重点をおいた表現、Cグループの場合は、動作（変化）の成立に重点をおいた表現になっている。

4. 日本語のシタ形とシテイル形

これまで、朝鮮語の ړ다 haissda 形と ړ 있다 hai 'issda 形を中心に述べてきた。これまでの考察から、現在の状態に対する ړ다 haissda 形と ړ 있다 hai 'issda 形の使い分けは、変化の完了が重要な情報か否かによっていることがわかった。一方、これまでの例でわかるように、そのような朝鮮語の ړ다 haissda 形の用法に対し、日本語ではシテイル形が対応する。それでは、日本語のシタ形とシテイル形の違いはどこにあるのであろうか。もう一度、これまでの例をみてみよう。

(3b) (死体を発見してすぐ) 人が { * 死んだ / 死んでる } !

(7b) (腕時計が止まっているのに気づいて) あ, { * 止まった / 止まってる }。

(4b) (いい服を着た見知らぬ人を発見して) あの人のいい服 { * 着たな / 着てるな }。

(18b) (初対面の人に) { * 結婚しましたか / 結婚していらっしゃいますか }。

(5b) (近づいてきた見知らぬ人が酒臭いのに気づいて横の友達に) お酒 { * 飲んだ / 飲んでる }。

上の例でわかるように、ある変化の結果状態を初めて見たとき、日本語ではシテイル形を使い、シタ形は使えない。一方、シタ形が現在の状態に対して使われるのは、次のような場合である。

(20) (さっきまで生きていた人が息をしていないのに気づいて) { 死んだか / * 死んでいるか }。

(21) (よく止まる時計が止まっているのを見て) あ, また { 止まった / 止まっ

てる}。

(22) (着替えてきた相手に) いい服を {着たな/* 着てるな}。

(23) (久しぶりに会った人に) {結婚されましたか/? 結婚していらっしゃいますか}。

(24) (酒の臭いをさせた夫が帰ってきたのに対し) お酒 {飲んだのね/飲んでるのね}。

上の文のうち、(21)(24)はシテイル形も使えるが、あとの文はシテイル形を使うことができない。これらシタ形の文は、話者がある状態を見て言ったものである。話者は変化の瞬間を見たわけではない。この点は、先ほどのシテイル形の文も同じである。しかし、シテイル形の文が主体の状態を初めて見る、あるいは主体の変化前の状態に注意を払っていない場合であったのに対し、これらシタ形の文は、話者が主体の変化前の状態をはっきり記憶している場合である。つまり、話者は以前の「死んでいない」「止まっていない」などの状態を覚えていて、今度変化後の状態を見たのである。このことは、(24)のように、動作のいわば間接的な結果が残っている場合も同じである。これらの例から、日本語では、話者が主体の変化前と変化後の状態の違いに気づいたときにはシタ形が使われ、主体の変化後の状態しか知らない、または意識しないときにはシテイル形が使われると言えよう。一方、朝鮮語では(20)~(24)の文でも 𑖇𑖆 haissda 形が使われ、話者が変化前の状態を知っていたか否かは重要ではない。

上で述べたようなシタ形とシテイル形の違いというのは、変化主体の状態について話者が持っている過去の情報と現在の情報とに差がある場合はシタ形、現在の情報だけしか持っていない、あるいは現在の情報のみを取り上げる場合にはシテイル形を用いると言い直すこともできる。ただし、その情報は話者が直接目撃・体験して獲得したものに限られる。そうすると、次のようないわゆる「発見」のシタ形も同じように説明することができる。

㉕) (捜していたボールペンを見つけて) あ, ここにあった!

㉖) A: ボールペンない?

B: ああ, ここにあるよ。

㉕)では「捜してもなかった」という過去の情報と「目の前にある」という現在の情報に差があるから、「あった」というシタ形が使われている。一方, ㉖)では過去の情報がなく現在の情報のみを取り上げているから, 「ある」が使われている。このように, 目の前の状態が結果状態でなく, 単なる状態の場合でも話者の持つ情報に差があればシタ形が使われる。⁶⁾

以上の考察から, 日本語のシタ形とシテイル形が目の前の結果状態, あるいは単なる状態に対して使われるとき, 話者が直接獲得した情報に過去と現在で差がある場合にはシタ形, 過去の情報を持たないか無視する場合にはシテイル形が使われることがわかった。

5. まとめと残された問題

本稿では, 目の前の結果状態に対する発話での朝鮮語と日本語の対応関係のずれ, 具体的には朝鮮語の ㄷ다 haissda 形と日本語のシテイル形の対応を中心に, 朝鮮語의 ㄷ다 haissda 形・해 있다 hai 'issda 形 (하고 있다 hago 'issda 形) と日本語のシタ形・シテイル形の使い方の違いについて考察した。考察の結果, 以下のことが明らかになった。

- ① 現在目の前に, ある変化の結果状態が存在するとき, 朝鮮語ではその変化の成立と変化結果の持続性, つまり変化の完了が話者にとって重要な情報のとき ㄷ다 haissda 形が使われ, 変化の完了自体が重要な情報でないときには 해 있다 hai 'issda 形が使われる。
- ② ただし, ㄷ다 haissda 形の文の中にも変化の成立そのものが重要な場合と, 変化の結果状態の持続が重要な場合がある。発話時まで変化の成立を知らなかったときは変化の成立そのもの, 発話時に変化の成立をすでに

知っていたときには結果の持続が重要な情報になっている。

- ③ 日本語のシタ形とシテイル形が目の中の結果状態に対して使われる場合、話者が直接獲得した情報に過去と現在で差がある場合にはシタ形、過去の情報を持たないか無視する場合にはシテイル形が使われる。
- ④ シタ形は、単なる状態が目の中にある場合でも情報の差があれば使われる。

以上のように、今回の考察で、朝鮮語의 했다 haissda 形・해 있다 hai 'issda 形 (하고 있다 hago 'issda 形) では、変化の完了が重要な情報か否か、日本語のシタ形・シテイル形では、すでに持っている情報との差のあるなしが、使い分けの基準になっていることがわかった。しかし、現段階では、このような朝鮮語と日本語の違いを統一的な枠組みで説明するには至っていない。その点で、対照研究として十分なものとは言えない。今後は、朝鮮語で重要視される変化の成立と結果状態の持続性が、日本語の各形態の用法に全く関与しないのか、逆に、日本語で重要視される情報の差が朝鮮語ではどうなのか、などより広範囲な考察を行うことによって、両言語の現象を説明し得る統一的な枠組みの構築をめざしたい。⁷⁾

このほか、今回の考察は朝鮮語의 했다 haissda 形・해 있다 hai 'issda 形 (하고 있다 hago 'issda 形)、日本語のシタ形・シテイル形の用法の一部を対象としたにすぎない。これらの形態の関係について、より包括的な考察が必要であることは言うまでもない。特に、否定形との関連や、いわゆる完了の用法との関連性など、今回の考察結果と関連して当然取り上げなければならない問題が残されている。また、テンス・アスペクト形式のうち、今回取り上げなかった形態についても、両言語の間に様々な対応のずれがみられる。それらの対応のずれが何を意味するのか、これもまた残された問題である。

[付 記]

本稿は、第 99・100 回朝鮮語研究会 (1993.9.25)、および国立国語研究所研究部会議 (1994.11.30) での研究発表がもとになっている。発表の際、貴重なコメントをいただいた方々に感謝申し上げます。また、本稿の執筆にあたっては、インフォーマントとして韓国の中央大学日語日文科の大学院生の皆さん、特に차현경、김연숙、이은경の各氏にお世話になった。改めて、感謝の意を表したい。

なお、本稿は文部省科学研究費補助金 03451065 「日本語とアジア諸語との対照的研究—テンスとアスペクター—」による研究成果の一部である。

注

- 1) ハングルのローマ字表記は、河野(1979)の 11 ページの表によっている。
- 2) 朝鮮語のテンス・アスペクトについての概括的な紹介は、梅田・村崎 (1982)、菅野 (1986) を参照のこと。朝鮮語のテンス・アスペクトに関する研究の流れは、伊藤 (1990)、浜之上 (1991) に詳しい。
- 3) アスペクト形式の取り方とその意味によって、動詞の分類を試みたものとしては、油谷 (1978)、浜之上 (1991) がある。
- 4) 伊藤 (1989) は、오다 'oda (来る) などの移動動詞における 해 있다 hai 'issda 形, 왔다 haissda 形の違いについて、해 있다 hai 'issda 形は「主体の位置変化後の局面を継続の中にあるものとして静的に描写する」という、いわば「到着したところでの滞在」をあらわす。一方, 왔다 haissda 形は「主体の位置変化という局面を分かť境界を乗り越えた」、つまり「到着地点に到達した」ことはあらわしていてもそこでの滞在については何も言っていないということになると述べている。さらに、浜之上 (1992) はこの点について、「到着したところでの滞在」を含意するかどうかの違いは、先行動作によってもたらされた後続状態を強調するかどうかという動作パーフェクトと状態パーフェクトの違いが反映されていると考えられると述べている。
- 5) A グループの動詞も変化時が特定されている文脈では、次のように 왔다 haissda 形で過去の出来事を表すことがある。

- (i) a. 다나카 씨는 작년에 결혼했다.
danaga ssi-nun jannyen-'ai gyŕhonhaissda
b. 田中さんは去年結婚した。

- 6) 次のように、情報の差があってもシタ形が使えないこともある。

- (ii) (久しぶりに会った相手に) お父さんに {* 似たな/似てきたな}。

上の文では、「似る」のシタ形は使えず、「似てくる」のシタ形を使わなければならない。「似る, つるつるする」など, もともと形容詞的な性格を持つ動詞は, 情報の差があってもシタ形が使えない。朝鮮語で形容詞的な性格を持つ ㄷ다 darmda (似る) などはもっぱら ㄷ다 haissda 形で使われるのに対し, 日本語の「似る」などはもっぱらシテイル形で使われる。これも, ㄷ다 haissda 形とシタ形の性格の違いを示すものと言えるかもしれない。

- 7) 日本語でも, 「窓が開いたままだ。」と言うときの「～たまま」などは結果状態の持続性が関与している形態であろう。ただし, 「～たまま」はその結果状態がよくない状況のときに使われるようで, 朝鮮語の ㄷ다 haissda 形に比べるとその使用範囲は狭い。

〈資料出典〉

〔森〕「森浦 가는 길」황석영『客地』創作과 批評社 1974

〔우〕「우리들의 일그러진 英雄」이문열『九老 아리랑』文學과 知性社 1987

〈主要参考文献〉

- 伊藤英人 (1990) 「現代朝鮮語動詞の過去テンス形式の用法について(1) - ㄷ다形について-」『朝鮮学報』137 朝鮮学会
- 梅田博之・村崎恭子 (1982) 「テンス・アスペクト 現代朝鮮語」『講座日本語学 11 外国語との対照Ⅱ』明治書院
- 生越直樹 (1991) 「韓国人日本語学習者のテンス・アスペクトに関する誤用について」『現代日本語のテンス・アスペクト・ヴォイスについての総合的研究』科学研究費報告書
- 生越直樹 (1993) 「朝鮮語における過去の出来事を表す表現」『日本語とアジア諸言語との対照的研究 - テンスとアスペクト -』科学研究費報告書
- 工藤真由美 (1989) 「現代日本語のパーフェクトをめぐって」『ことばの科学』3 むぎ書房
- 工藤真由美 (1993a) 「テンスとテンポラリティー」『日本語とアジア諸言語との対照的研究 - テンスとアスペクト -』科学研究費報告書
- 工藤真由美 (1993b) 「現代日本語における過去の出来事の表現 (その2)」『』
- 河野六郎 (1979) 『河野六郎著作集 1』平凡社
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味 Ⅱ』くろしお出版
- 浜之上幸 (1991) 「現代朝鮮語のアスペクト的クラス」『朝鮮学報』138 朝鮮学会
- 浜之上幸 (1992) 「現代朝鮮語の「結果相」=状態パーフェクト - 動作パーフェクトとの対比を中心に-」『朝鮮学報』142 朝鮮学会

- 油谷幸利 (1978) 「現代韓國語 動詞分類」『朝鮮學報』87 朝鮮學會
- 김차균 (1980) 「국어 시제 형태소의 의미」『한글』169 한글학회 서울
- 南基心 (1978) 『國語文法의 時制問題에 關한 研究』塔出版社 서울
- 徐正洙 (1976) 「국어 시상형태의 의미분석 연구」『문법연구』3 문법연구회
서울
- 徐正洙 (1992) 『국어 문법의 연구I (증보개정판)』한국문화사 서울
- 한현종 (1990) 「현대국어의 시제체계의 수립과 그 제약조건」『國語研究』99
國語研究會 서울